

平成26年度 大濠中学校・高等学校の教育目標・課題 自己評価 平成27年3月17日自己評価

<p>【建学の精神】 本校は福岡外事専門学校附属大濠中学校として、1948(昭和23)年に設立された。敗戦直後のこと、国土は荒廃し、思想や価値観も混迷をきわめていた。日本の復興には有為の青年を教育する私立学校が必要だと準備が進められた。 旧神社庁の古い建物を借用し、補修に補修を重ねて大濠中学校が開校に漕ぎ着けた。初代校長に就任した井口末吉校長は、241名の新入生に向かって「人材の育成は校舎にあらず教師にあり。道徳教育を根幹として教育を断行する」と宣言した。</p> <p>【教育方針(高等学校)】 1 日本人としての自覚と誇りを持たせる。 2 道徳教育を通じて人間性を高める。 3 広く自主活動を促し、能力を啓発する。</p> <p>【教育方針(中学校)】 1 国際的な視野を養い、適正な判断力と自主性を発揮する。 2 高い知性と豊かな感性を培い、自由で伸び伸びとした活動をする。 3 たくましい体と思いやりの心を育み、お互いの人格を尊重する。</p> <p>【校訓】 一 明朗闊達 一 自重敬他 一 研学錬体 一 進取創業</p>				
<p>【平成26年度の育成目標】 1 自由と正義を愛し、自律的に自己および他者の生きる価値を尊重できる人格の育成。 2 男女が共に生活する社会の意義を見つめ、自己の役割を追求し実践できる人格の育成。 3 教科の学びを起点に社会とのかかわりを見つめ、自己の視点を構築できる人格の育成。 4 公共社会の一員として、社会全体の福祉の向上に寄与貢献できる人格の育成。</p> <p>【3つの重点課題】 1 学習への主体的な取り組み(学力向上、進路指導) 2 共学化に伴う学校生活の安定 3 「自己と他者を見つめて」(基本的な生活習慣、教科横断的取り組み)</p> <p>【5つの重点評価項目】 1 授業改善 2 進路指導・キャリア教育 3 教科を超えた取り組み 4 生徒会の自主的活動の促進、部活動 5 生活指導</p>				
教科	各教科は、育成目標の第3「教科の学びを起点に社会とのかかわりを見つめ、自己の視点を構築できる人格の育成」を踏まえ、それぞれの教科の特性に応じて年間目標を設定する。教科には独自の「学び」のスタイルがあるが、そのような独自性をコアにしつつ、生徒諸君は教科を通じて自己を見つめ、社会を見つめる視点を培っていく。	自己評価		
国語	全体目標	○古典を通して日本人として伝統文化、価値観を理解し、現代文を学ぶことで現代が抱える問題と今後に関して考察する力を養育する。 ○日本語を通して思考力・想像力を伸ばし、相手を理解し、異文化を理解できる力を養育する。 ○自らの思いを伝えるための言語としての日本語を身に付け、周囲とコミュニケーションの取れる言語感覚を養育する。		
	中学校 学年目標	(中学1年)現代の日本語の表現と読解力を習得させる。 (中学2年)現代の日本語の表現と読解力を習得させながら、伝統的な表現法に触れる。 (中学3年)現代の日本語の表現力と読解力を錬磨させ、古典も含めた体系的な言語としての日本語を習得させる。 ※学年ごとに目標評価項目あり(非開示)。	B B B	
	高等学校 学年目標	(高校1年)現代文、古文、漢文の読解の為の基礎的な知識を習得させる。 (高校2年)現代文、古文、漢文の読解の為の知識を確認し、読解の為の技術を習得させる。 (高校3年)コミュニケーション能力としての一助となる読解力の習得と高度な理解を伴う技術を習得させる。 ※学年ごとに目標評価項目あり(非開示)。	B B B	
数学	全体目標	各分野での基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的に考察し表現する能力を伸ばし・養うとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。	B	
	中学 1・2年	中学の内容を把握させるとともに、理解し問題が解けるように指導していく。高校数学へのステップとして予習復習・ノートの書き方等、丁寧に指導する。数学嫌いをつくらず、問題を読み・理解し・解法することが楽しくなるような生徒を育成する。	B	
	中学 3年	高校の授業の先取りで数学Ⅰ・Aをやるので、しっかり理解させ、基礎力の定着をさせる。また演習をすることによって応用力をしっかりと身につけさせる。	A	
	高校 1年	予習・授業・復習の基本的な学習スタイルを確立させる。また確認テストや計画的な課題を用いて、全員が基礎学力を身に付けられるように導く。補習授業が始まってからの授業との関連や学習方法を指導する。	B	
	高校 2年	文理に分かれ、文系数学では数学Ⅱ・Bで終了となるため、教科書が終わり次第演習時間を増やし、徐々に受験に向けた学習方法を指導する。理系数学は、1年次と比べて授業スピードも速く、内容も深くなるので、授業を充実させ家庭での予習復習、補習での演習の大切さを指導していく。	B	
	高校 3年	文系：演習をこなすことにより応用力をつけ、入試に向けての実力を付けさせる。 理系：新課程数学Ⅲの授業進度を上げ、演習時間をつくることにより、入試に向けての実力を付けさせる。	B	
英語	中学目標	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。		
	中学 学年目標	中学1年：実用英語検定4級以上の取得を目指す。 中学2年：実用英語検定3級以上の取得を目指す。 中学3年：GTEC GRADE3以上、実用英語検定準2級の達成を目指す。	B B B	
	高校目標	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。		
	高校 学年目標	高校1年：GTEC GRADE3以上、実用英語検定準2級以上の達成を目指す。 高校2年：GTEC GRADE4以上、実用英語検定2級の達成を目指す。 高校3年：GTEC GRADE5以上の達成を目指す。	B B C	
	評価指標	A. 平成26年度評価項目	B. 評価項目達成のための具体策(実施内容・方法など)	
		1. 語彙・文法の学習を通して、基礎的な学力を向上させる。 2. 「読むこと」の能力を伸ばす。 3. 「聞き取る」能力を伸ばす。 4. 「書くこと」の能力を伸ばす。 5. 「話すこと」の能力を伸ばす。	1. ①課題や文法問題集などの学習を通じ、基礎力を定着させる。 ②英単語テストなどを実施し動機付けをはかる。 2. 多様な音読活動を取り入れ授業方法を工夫する。 3. リスニング教材等を用い(中学ではALTを活用し)、英語の音に慣れさせる。 4. テーマを与え、英語で書かせる。 5. 課題英文を暗記させ言わせる。 ※学年ごとに評価指標あり(非開示)。	

理科 中学	総括目標	理科の学習を通して、次のような人格の育成を目指す。 1. 自然科学分野への興味関心を持ち、生命尊重の態度を有する人格。 2. 科学的な物事の捉え方や価値観を身につけることに積極的に取り組む態度を有する人格。	
	指導目標	生徒一人一人にとって魅力ある授業展開を目指す。 ○教材研究の徹底 ○生徒の理解度に合わせた演習、課題内容の厳選 ○進度表に基づいた進度確保 ○クラス担任との情報交換に基づいた深い生徒理解 ○生徒一人一人の個性に応じたきめ細かな指導 できるだけ多くの「モノ」に触れさせる。 ○学習効果を十分に吟味した生徒実験・演示実験の実施 ○個々の学習内容と日常生活との関わりを意識した教科指導の実践 ○実験器具等の基本的な扱い方や操作の習得の徹底 ○実験時における安全管理・危機管理指導の徹底 高等学校での学習を見据えた指導を行う ○中学校理科から高等学校理科、大学入試へのつながりをイメージさせる指導 ○実社会で起こっている諸事象に関する考察の指導	B
理科 高校	総括目標	コースに応じた選択科目(物理・化学・生物・地学)の学習を通して、次のような人格の育成を目指す。 1. 自然科学分野への畏敬の念と生命尊重の態度を有する人格 2. 様々な自然・科学現象の理解に積極的に取り組む態度を有する人格 3. 自然科学的な物事の捉え方や価値観に基づいた諸問題の解決や社会発展を目指す態度を有する人格	
	指導目標	生徒一人一人にとって「わかりやすく、魅力ある」授業展開を目指す。 ○教材研究の徹底 ○生徒の理解度に合わせた演習、課題内容の厳選 ○進度表に基づいた進度確保 ○クラス担任との情報交換に基づいた深い生徒理解 ○生徒一人一人の個性に応じたきめ細かな指導 ○学習効果と進度確保を十分に考慮した生徒実験・演示実験の実施 ○実験器具等の基本操作習得や実験時における安全管理・危機管理指導の徹底 進路実現に繋がる生徒一人一人の意識向上を目指す。 ○模擬試験等の事前指導や事後指導、大学入試の過去問題を使つての発展的な学習指導 ○個々の学習内容と日常生活や最先端の研究との関わりを意識した教科指導の実践 ○将来の職業選択を意識した実社会で起こっている諸事象に関する考察を促進 ○生徒の進路希望の把握と個別指導への反映	B
地歴 公民	教科目標	1. 地理的認識や歴史的認識を身につけさせ、地理的思考力や歴史的思考力を培い、我が国の風土や歴史を理解するとともに国際的な視野をもった人格を育成する。 2. 人間としてのあり方や生き方、政治・経済の基本的な見方や考え方を身につけさせ、社会全体の福祉の向上に寄与できる人格を育成する。	
	具体的課題	1. 知識注入型ではなく、考えさせる授業を行う。 2. 生徒の主体性を促すような新しい授業スタイルの研究を行う。 3. 教科指導と生徒指導の一体化を行う。	
	具体的な取り組み	1. 研究授業の活性化によって、授業改善への努力を続ける。 2. 研究授業を通じて、新しい授業スタイルを模索する。 3. 暗記に頼る問題でなく、考えさせる問題を作問する。 4. 大学入試研究を充実させ、教科指導に反映させて受験対応力を高める。	C C C C
保健 体育	体育実技・保健を通しての基本的なねらい	子どもの長期的な体力低下への対応が喫緊の課題となる中、本校生徒においても年々体力が低下しているのがうかがえる。学校における体育・スポーツ活動を通して、子どもの運動への動機づけを図り習慣化を促進し、体力を向上させる。さらに授業の中で自由と礼節を尊び、自ら考え自ら判断し、責任をもって行動できる自律的な人間を育てる。	中学男子B 中学女子A 高校男子B 高校女子B
	体育実技	(目標) 中学…年間カリキュラムに沿って、基礎的な身体活動を中心に運動の楽しさや喜びを味わい、たくましい体と思いやりの心を育み、お互いの人格を尊重する。 高校…心と体を一体としてとらえ、スポーツについての専門的な理解を深め、個性豊かな潤いある心身共に健康な人格を育成する。 (具体的な取り組み) 中学、高校を通じ新体力テスト(中学)、運動能力テスト(高校)を行い、さらにその結果を効果的に活用することで、発達段階に応じた指導を行う。また、安全面については十分に配慮する。	(目標) 中学男子B～C 中学女子A 高校男女A～B (具体的取組) 中学男女A 高校男女A
	保健	(目標) 中学…心身の健康の保持増進の実践力を育成するため、単なる暗記ではなく高い知性と豊かな感性を培い、男女が共に協力しながら適切な意思決定や行動選択及び環境づくりを行う。 高校…授業を通して個人生活及び社会生活に関する事項を正しく理解し、男女が共に生活する社会の意義を見つめ、適切な意思決定や行動選択を行う。 (具体的な取り組み) 中学においては、板書等を各自のノートに記入させ毎学期の期末考査前には全員提出させる。高校については、保健ノートを単元ごとに整理させ、毎学期の期末考査前には全員提出させる。 中学、高校を通じ新体力テスト(中学)、運動能力テスト(高校)を行い、さらにその結果を効果的に活用することで、発達段階に応じた指導を行う。また、安全面については十分に配慮する。	(目標) 中学男女A 高校男女B (具体的取組) 中学男女A 高校男女A
芸術	目標	1. 教科書の課題に取り組みさせるため必要となる技術・技巧を身につけさせ、さらに表現力や芸術性、鑑賞力を深めさせたい。 2. 鑑賞は不可欠である。作業伴い効果的に鑑賞の機会を与えたい。 3. 作品制作や演奏に真面目に取り組ませることで、芸術への理解を一層深めさせたい。同時に芸術に触れることで豊かな心や喜び、本物への尊敬の心が生まれ、其々の人生にとってかけがえのないものになってほしいと考える。	C
技術 家庭	目標	男女共生社会を構築する上でキイとなる教科であり、人の一生という射程の中で、生活の様々な領域を対象とする。このような教科の特性に基づき、知育偏重に陥ることなく、総合的な視野と社会に対して実践的に働きかける姿勢・資質を育むことを目的に、家庭・技術それぞれに次の目標を掲げる。	
	家庭	1. 人の一生と消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得する。 2. 学習した知識や技能を生かし、家族や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。 3. 家族や社会との共生をめざし、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	B
	技術	木材加工実習や電気工作等の実践的なものづくり体験を通して、生活に必要な知識及び技術の習得を目指すとともに、技術を適切に評価し活用する能力を育てる。	
情報	目標	情報化が急速に進む中において、情報社会の特質を理解し、情報処理に関する基礎的な知識・技能を習得させることは重要な社会的課題であり、今後一層進展する情報化に主体的に対応できる能力、及び情報社会に積極的に参画する態度の育成を目標として、次の指導指針掲げる。 1. 情報社会の特質を考察させ、情報に関する科学的な見方・考え方を養成する。 2. 情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集・処理・表現する基礎的な知識・技能の習得・定着を図る。 3. 情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報セキュリティや個人の責任など情報モラルについて主体的に判断できる態度・資質を養成する。	B 1…C 2…A 3…B

学年	学年は、学校の基礎単位である各学級を直接束ねる基幹的組織であり、学年のあり様は生徒の学校生活に直結する。従来、学年の目標を公示することはなかったが、学校評価に伴って、各学年も目標を明文化し、公表する。		
中学	学年目標	1年：学校生活になれさせ、基礎学力の定着と、基礎的な体力をつけ、基本的な生活習慣を身につけさせる。 2年：各分野におけるリーダーを養成し、学校行事を活気あるものにする。生徒たちの個性・状況を観察し、全員で育てていく。 3年：最上級生としての自覚をもって、行動する。	A B B
高校 1年	生徒指導 生活指導	「服装頭髪検査」を生活面の指導の最重要事項と位置づけ、高1担当全員で、最後の一人が合格するまで丁寧に行う。 また、遅刻・欠席・早退等がなく、規律ある学校生活を送れるよう生徒の意識を高め、基本的な生活習慣が身につくように指導する。	A B
	学習指導 進学指導	「後悔しない文理選択」を実現させるため、学年ができる限りの進学情報を提供する。 「総合的な学習の時間」を計画的に行い、進路の明確な目標や文理選択の意識を高めさせる。 受験の基礎・基本となる高1学習内容を定着させるため、家庭での予習・復習の習慣を確立させる。 一方で、学部模試・外部進路説明会などをもっと有効に利用し、生徒の進路決定に様々な働きかけを提供していく。	A B C B 全体としてはB
高校 2年	生活の 目標	○基本的な生活習慣の確立 ○落ち着いた気持ちのよい学びの場作り ・生活環境の整備(身だしなみ、清掃指導) ・生活リズムを整える(遅刻・欠席に対する指導、保護者との連携) ・生徒と教師間の信頼関係の構築 ・自己管理能力の育成 ・挨拶の励行、時間厳守精神の育成	B
	学習の 目標	○進路意識の向上 ・二者面談、個別指導の充実 ・キャリア教育の充実 ・オープンキャンパス等の奨励 ・LHRの活用	B
	学校行事・ 人権・道徳 に関する目 標	○リーダーの育成 ○共感する力、伝える力の育成 ○帰属意識の涵養 ・生徒会活動や学校行事への積極的な参加(生徒会活動への理解と協力) ・学校行事、生徒会活動等におけるリーダー育成(生徒会との連携)	B
	その他	○修学旅行を有意義なものにする ・十分な事前学習、集団行動の指導の徹底	B
高校 3年	学習指導	○学ぶ姿勢の確立 ・予習・復習の方法を含めた上での徹底指導を図り、授業に主体的に取り組ませる。 ○向上心の育成 ・小テスト、定期考査、模試に対する意識の向上を図る。 ・「知りたい、分かってほしい、出来たい」を追求する気持ちの育成を図る。	B
	生活指導	○基本的な生活習慣の確立 ・補習時間帯からの遅刻・欠席指導をはじめとする時間の厳守 ○学習環境の整備 ・教室の整備(学習に不要な物を置かない)および美化に務めさせる。 ○問題行動の予防・防止 ・朝礼・終礼を利用して問題行動に関する諸注意を徹底する。ルール遵守、公共マナーの徹底。	B
	進路指導	○進路意識の高揚 ・志望進路調査等の内容に基づいて面談を行い、個別に進路意識の向上を図る。 ・男女それぞれの志望動向をしっかりと把握した上で、的確な指導を行う。 ○モチベーションの向上・維持 ・第1志望合格を信じさせ、励まし育てる(あきらめないというメンタルの強化)。	B

校務分掌	学校の校務運営のため本校は多くの校務分掌を持ち、それぞれ多岐にわたって校務を運営している。今回、学校評価に当たってはすべての分掌を網羅的に取り上げてはいない。今年度の重点課題3項目、及び育成目標4項目に直接かかわる部署について目標を掲げる。	
総務課	総括目標	本校は育成目標の第1に人格主義を掲げる。また第2、第4ではそれらの人格が社会の中で実践され、公共社会に貢献することがめざされる。多様な範疇からなる総務課ではこれらの目標を自覚し、各セクションに次の課題を掲げる。 また広報では本校の魅力のトータルなアピールに努め、また本校の今後のあり方を巡って有意な情報収集に努める。
	中学総務	○粘り強く生徒に寄り添い、生徒と繋がり、レポート作りを通して信頼関係を構築し、中学生らしく、明るく伸び伸びと学校生活を送れる環境作りを手助けし、高校への橋渡しをする。 ○道徳教育を通して、高い規範意識を育て、問題行動等を未然に防ぐ。発生した場合には、組織として迅速に組織として対処する。 ○生徒達の潜在能力を十分に伸ばし、難関国公立大学、国立医学部、有名私立大学等の現役合格を支援すべく、一貫教育カリキュラムの点検と充実への基礎固めをする。
	教科を超えた取り組み	人権同和教育…人格主義の中核的部署として、人権侵害・差別事象の防止に努める。 いじめの一端(インターネット上を含め)、教室内での人権保障(生徒の学習権の保障、セクハラ発言の防止)が目標。 【学年テーマ】中1「生命の尊重・いじめ問題」、中2「平和学習」、中3「少数民族、部落問題」 高1「身近な人権侵害」、高2「権利獲得のための闘争の歴史」、高3「身近な差別事象(結婚差別、就職差別)」 総合的な学習…教科の枠を超えた横断的・総合的・探求的な学習を目指す。 (中学)総合文化発表会を念頭に、①課題設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現の一連の学習活動をめざす。 学年テーマ:1年「自分を知る」「社会を知る」、2年「職業研究」、3年「修学旅行に向けての研修」 (高校)全体の目標:「進路意識の啓発・高揚」。多様な文脈の中で主体的・探求的な学びの姿勢を養成する。 学年テーマ:1年「自己と他者を見つめて」、2年「修学旅行研修」「進路意識の具体化」、3年「希望進路の実現に向けて」 国際交流…グローバル社会を生きていく生徒達に国際交流の機会を提供し、国際交流への興味・関心を高める。国際交流を通してグローバルな視野をもって異文化理解を深め、共存意識を深めるとともに、自国と自己を深く見つめ、自国の文化や自己についての発信力を養う。語学短期留学制度の充実・整備を目指す。
	広報	本校の魅力についてのアピール 1. 「道徳教育」を根幹とする全人教育 2. 基本理念としての「授業中心主義」 3. 「自主活動」の奨励 中学(中高一貫コース)での多彩な学校行事 高校3コースの活発な交流…部活動、生徒会活動、文化祭や体育祭などの実行委員会はすべてのコースから参加。 3年生で実施される放課後補習は講座制。すべてのコースから選択可能。 学校見学会・説明会、学校案内などの充実。 生徒・保護者の目線とニーズに合った広報戦略の構築。 本校の進むべき方向性についての情報収集。
教務課	年間目標	1. 「わかりやすい授業」「生徒を引きつける魅力ある授業」「規律ある授業」を目指して、教員の授業力向上を図る(授業第一主義)。 研究授業・公開授業、あるいは作問会議を充実させることを通じて授業力向上に向けた努力を絶やさない。 2. 各教科、各学年と連携して、バランスのとれた学習体制、組織的な進路指導体制のより一層の強化を図る。 3. 授業を通して生徒に学ぶ喜びを発見させ、生徒の基礎力充実を図り、柔軟な思考力、学習に主体的に取り組む姿勢を育てる。 さらに、生徒一人ひとりの個性を伸ばし、社会の規範となる態度を養い、心豊かでたくましく生きる力を育てる。
	進路指導総括目標	1. 第一志望を大切にす進路指導(生徒との面談や文理分け・コース分けの指導) 2. 進路指導への細やかな配慮 3. 九大など難関校の魅力を伝えること 4. 教師の進路指導研修 5. 推薦希望者に対する進路意識や学力を付けさせる指導 6. 推薦・AO・面接・小論文についての情報提供 7. 進路追跡調査(担任)
	進路計画	中1:基礎学力を定着させ、適宜必要な錠を提供することで目的意識を持たせ、主体的な学習への意識を高め、その動機付けを行う。 中2:自己理解を深め、自分の将来像をイメージさせるとともに、正しい職業観を持たせる。 中3:各自の興味や適性に対して自覚をもたせ、大学進学も視野に入れながら進路に対する意識を高めさせる。 高1:情報の共有と継続指導(ベネッセ・ハイスクールオンライン、進研模試結果報告会)。補習への意識づけ。コース希望調査。 高2:デジタルコンテンツの利用促進、文書の共有による業務の効率化、コース選択調査・クラス編成の円滑実施。 高3:模試結果などの情報提供。志望状況の把握。補習の有効化。推薦希望者の補習受講奨励。模試を基準とした計画的学習。
	進路情報	進路情報の積極的な収集と、進路相談室、進学掲示板、資料の掲示・配布等を通じて情報の生徒還元。 毎年度集約と反省を行い、次年度に継承。
	講座研究	進路情報を共有し、全学としての進学意識の向上を図る。 進学情報提供の講座や大学の出張講義の企画・立案 1. 大学関係者による出前授業・入試説明会(生徒対象、教員対象) 2. 卒業生によるホームカミングデイ
	就職指導	就職希望者に対する手厚いサポート。ハローワーク・求人企業との連携。就職情報の収集。
	進路管理	現状の把握。卒業生の実進路の情報整理。同窓会との情報交換・連携の模索。
生徒課	年度目標	1. 中学生・高校生としての常識と規範意識を持ち、コミュニケーション能力の高い生徒を育成する。 2. 男女共学を踏まえた学校生活の安定を図る。 3. 中高とも生徒会活動の自主的活動を促し、学校行事の成功を期す。 4. 部活動の活性化と中高一体の指導の安定化。
	具体的課題	1. 懲戒規定の検討 2. 男女共学に伴う女子指導体制確立 3. 女子服装の検討 4. いじめ防止対策基本方針の制定 5. 部活動指導体制の環境整備 6. 盗難防止の徹底
	重点的な取り組み	1. 学校に校則をはじめとしたルールが何故あるのか、生活指導上のルールの必要性や意義について生徒に語りかけ、生徒の理解を促す。 2. 生徒一人一人に向き合い、優しさや厳しさ、熱意をもって対応すること。 3. 服装や頭髪のだらしない生徒、態度に問題のある生徒についてはその時で直ちに指導する。現場主義の徹底。 4. 生徒会活動の組織的な指導に基づく、自主的な企画・運営を図る。特に体育祭・文化祭。 5. 部活動の目標設定。

B

B

B

B

A
C
C

C

いずれも B

1…C
2…B
3…B
4…A
5…B
6…B